青垣

第 50 号

平成二十五年十二月一日発行

奈良県橿原市久米町九三四
奈良県神社庁内

発行所　奈良県神道青年会
電話〇七四二―二―四七三番

編集者　広　報　部

祝祭日には
国旗を
揚げましょう

古に稽へて今に照らす
（古事記 序 第一段）

会長挨拶

大神神社
権禰宜　大月智

先の臨時総会に於いて図らずも第二十四代会長に選出されました、大神神社権禰宜の大月智です。

本年は、まず五月に出雲大社で平成の大遷宮が、そして十月に神宮両宮で遷御の儀が執り行われましたこと慶賀の至りに存じます。天津神国津神の代表である御社が共にその社殿を一新されたわけですが、そのような佳節であり神社界の生まれ変わりのときに会長という重責を担う事に、改めて身の引き締まる思いでございます。

今期は近畿地区連絡協議会の当番県を終えいよいよ来年に控えた、当会創立五十周年事業を行う重要な期であります。また今期は神青協創立六十五周年、近畿地区設立二十年等、節目の重なる時でもあります。周年事業というのは、その設立当初の先人の努力に思いを馳せ、次の区切りに向けて踏み出す動因となるものです。現役会員の我々の一人ひとりがそれぞれの立場で頑張ることが、次の世代へと繋がっていくものと思います。

第六十二回の神宮式年遷宮は諸儀の全てが終わったわけではありませんが、早くも二十年後となる次回の式年遷宮に向けた取り組みを始めねばなりません。青年会では十月に、神宮と奈良県との深い繋がりについて説明した小冊子を作成し配布いたしました。これにより神宮大麻頒布の増体を目指すものですが、併せて奈良県の方々がもっと地元に目を向ける、国の基である奈良県の各地域をより大切にして頂く契機となれば有難いという思いも含んでおります。創立五十周年事業につきましても、奈良県に根差す取り組みを行って参りたいと考えておりますので、何卒ご協力賜りたく存じます。

一口に五十年と言いますが、人生と同じく、一年ずつ、一日ずつの積み重ねが結実したものです。立ち止まり、後ろへ戻ることはできません。無駄な一日を過ごすことなく五十年もの間、多くの先輩方が築きあげてきた当会を、更に五十一年目へ踏み出す第一歩が盤石なものになるよう微力ながら努力してまいる所存でございますので、何卒ご指導ご鞭撻賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせて頂きます。

前会長挨拶

葛木坐火雷神社
宮司　持田　照久

平成二十三年四月、奈良県神道青年会々長の大役にご選任戴いてより早くも二年の歳月が流れ、本年四月二十六日の定例総会を以て、任期満了により退任致しました。

在任中は奈良県神社庁の皆様を始め県内各神社の宮司様や先輩諸兄のご理解ご協力を賜り、理事役員会員の同志と一致団結して会務運営諸活動を展開出来ました事を厚く御礼申し上げます。

振り返りますと前期の船出は東日本大震災より一ヶ月後、半年後には紀伊半島南部を襲った台風被害により、恒例の事業活動を進めながらも、神青協の復興支援活動への参加や柿坂先輩の奉務神社「天河神社」での復旧活動等、様々な活動を展開して参りました。

天河神社での復旧活動には会員奉務神社宮司様のご理解の元多くの会員が集まり、先輩諸兄にも駆け付けて戴き連日迅速な活動が出来ました事は、奈良県神道青年会が繋ぐ世代を超えた絆によるものと深く感動致しました。

古事記撰上千三百年にあたる昨年四月には、宮崎県神道青年会と姉妹神青を締結致しました。単位会・地区・神青協の諸活動に一致協力していく事は申し上げるまでもありませんが、今後も神武天皇の御神縁のもと、両会会員の交流を深め古事記や神話を学び、両会の教化活動や奉務神社での教化活動に繋げていけるような活動を期待しております。

平成二十四年度は、神道青年近畿地区連絡協議会の当番府県の順番が廻ってきました。瀧澤会長期の二年目を奈良の地で行う事となり、近畿はひとつの合い言葉の元、多くの近畿地区会員をお迎えしました。メインテーマを「古事記」として、一年を通じて様々な講演会研修会を企画し、本年五月の定例総会を以て無事に滋賀県神道青年会に引き継ぐ事が出来ました。

他にも神話紙芝居団かたりべまほろばの活動や、皇居勤労奉仕青垣奉仕団の実施等、本当に多くの事業活動に対して、理事役員を始め会員の皆様には積極的なご参加を戴きました事を厚く御礼申し上げます。

平成二十五・二十六年度は神道青年全国協議会理事、神道青年近畿地区連絡協議会副会長を仰せつかり、皆様のご支援の元送り出して戴いております。

神宮式年遷宮を迎えた今期は、神青協六十五周年、近畿地区二十周年、そして奈良県神道青年会は五十周年を迎えます。又、神青協中央研修会を近畿地区主管として開催、阪神淡路大震災から二十年、戦没学徒追悼祭は二十回目を迎えます。前期以上に多くの節目を迎え事業活動が展開されます。今後も積極的にご参加を戴くと共に、青年神職の同志との交流を広め親睦を深め研鑽を積み、人生の宝をより多く掴んで戴ける事をご期待申し上げます。

奈良県神道青年会　理事役員

役職	奉務神社	氏名
会長	大神神社	大月　智
副会長	談山神社	花房　兼輔
副会長	橿原神宮	多田　佳史
事務局長	春日大社	一木　真守
会計	春日大社	越智　康介
理事	春日大社	鈴木健太郎
理事	龍田大社	稲熊　憲彦
理事	往馬坐伊古麻都比古神社	大森　啓史
理事	石上神宮	小嶋　靖久
理事	大神神社	木村　克之
理事	大神神社	高山　裕宇
理事	八咫烏神社	栗野　義典
理事	橿原神宮	高鉾　義嗣
理事	橿原神宮	篠　泰比呂
理事	廣瀬神社	樋口　忠親
監事	葛木坐火雷神社	持田　照久
監事	御霊神社	神田　憲明

定例総会

去る四月二十六日奈良県神社庁において、平成二十五年度定例総会が開催された。

奈良県神社庁栃尾泰治郎庁長を来賓としてお迎えし、会員二十八名が出席した。

総会では平成二十四度年活動報告と決算報告、役員改選の件、平成二十五年度活動計画と予算案が満場一致で承認された。これより持田前会長から、任期中に当会創立五十周年の大きな節目を迎えることとなる大月新会長の体制へスタートを切ることとなった。

定例総会はこれまで、橿原神宮・大神神社・春日大社の三社で開催されてきたが、今回は昨年新しく竣工した、奈良県神社庁で初めて開催させていただくこととなった。

総会後は橿原市内の食事会場に移り懇親会が開催された。奈良県神社庁中川行夫事務局長ご出席のもと、新旧役員、会員により夜遅くまで盛大に行なわれ、相互の親睦を深めることができた。

平成二十五・二十六年度 奈良県神道青年会　組織図

- 総会
  - 理事会
    - 会長 大月　智
      - 事務局長 一木　真守
        - 事務局会計 越智　康介
          - 事務局員 鈴木　健太郎
      - 副会長 多田　佳史
        - 広報部長 栗野　義典
          - 副部長 高山　裕宇
            - 部員 諸社会員
        - 渉外部長 木村　克之
          - 副部長 樋口　忠親
            - 部員 橿原会員
      - 副会長 花房　兼輔
        - 事業部長 髙鉾　義嗣
          - 副部長 稲熊　憲彦
            - 部員 春日会員
        - 組織教化部長 篠　泰比呂
          - 副部長 小嶋靖久・大森啓史
            - 部員 大神会員
      - 創立50周年実行委員会
  - 監事 持田　照久 / 神田　憲明
  - 監事会

【神道青年全国協議会】
理　　事：持田照久
代　議　員：大月智・多田佳史
時局対策員：大月智
遷宮啓発委員：大月智

【神道青年近畿地区連絡協議会】
副 会 長：持田照久
理　　事：大月智・花房兼輔
事業委員：栗野義典・樋口忠親

【皇居勤労奉仕推進委員会】
委員長：花房兼輔
事務局：中野光
委　員：鈴木健太郎
　　樺山恭平

【かたりべまほろば】
団　長：花房兼輔
副団長：篠泰比呂
　　小嶋靖久

【奈良県子ども・若者支援団体協議会】
理事：鈴木健太郎

【神宮大麻頒布推進委員】
委員：樋口忠親・稲熊憲彦

奈良県神道青年会 活動報告及び計画（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

月	日	内　容	場　所
4月	12日	第24回理事役員会	春日大社
	同日	会計監査	春日大社
	15日	奈良県護國神社春季大祭助勤奉仕	奈良県護國神社
	18日	神道青年近畿地区連絡協議会第1回事業委員会	中国新名菜敦煌
	23日	神道青年全国協議会第65回定例総会	神社本庁
	26日	平成25年度定例総会	奈良県神社庁
	同日	同懇親会	洋風居酒屋ＣＬＯＶＥＲ
5月	8日	神道青年近畿地区連絡協議会第5回役員会（新旧）	橿原観光ホテル
	16日	神宮京都奈良三神青野球大会	大仏山公園
	20日	第1回理事役員会	大神神社
	22日	神道青年近畿地区連絡協議会第2回事業委員会	大阪府神社庁
	27日	神道青年近畿地区連絡協議会第6回役員会（新旧）	橿原神宮
	同日	神道青年近畿地区連絡協議会平成25年度定例総会	橿原神宮
	28日	神道青年近畿地区連絡協議会野球大会	橿原市運動公園
6月	19日	第2回理事役員会	橿原神宮
	20日	神道青年近畿地区連絡協議会第3回事業委員会	京橋明ごころ本店
7月	2～3日	神道青年全国協議会宮城県復旧支援活動	宮城県
	6日	神話紙芝居団「かたりべまほろば」第44回公演	春日大社
	18日	神道青年近畿地区連絡協議会第3回事業委員会	大阪府神社庁
	22日	神道青年近畿地区連絡協議会第1回役員会	琵琶湖ホテル
	同日	神道青年近畿地区連絡協議会顧問参与会	琵琶湖ホテル
	25日	第3回理事役員会	春日大社
8月	4日	神話紙芝居団「かたりべまほろば」第45回公演	橿原神宮
	12日	第4回理事役員会	大神神社
	13日	神話紙芝居団「かたりべまほろば」第46回公演	近鉄百貨店　橿原店
	15日	神道青年近畿地区連絡協議会第4回事業委員会	中国新名菜敦煌
	17日	神話紙芝居団「かたりべまほろば」第47回公演	橿原ロイヤルホテル
	19～20日	禊・鎮魂錬成研修会	石上神宮
	19日	第1回勉強会	石上神宮
	27～28日	神道青年全国協議会夏期セミナー	神社本庁・皇居
	30～31日	神宮式年遷宮　お白石持ち行事	神宮
9月	2～3日	姉妹神青交流事業	宮崎県
	4～5日	神道青年全国協議会福島県双葉郡浪江町本務神社復興支援活動	福島県
	5日	南都聖和会との親睦交流会打合せ会	近鉄西大寺　月日亭
	6日	奈良県神社庁長杯親睦スポーツ大会	ひがしたけだドーム
	同日	同懇親会	備長扇屋奈良桜井店
	9日	神道青年近畿地区連絡協議会第5回事業委員会	大阪天満宮
	10日	第5回理事役員会	橿原神宮
	18日	神道青年近畿地区連絡協議会第2回役員会	近江神宮
	同日	神道青年近畿地区連絡協議会第1回連絡会	琵琶湖ホテル
	26日	皇室関連施設清掃奉仕	京都市　修学院離宮
10月	4日	神宮大麻暦頒布始祭参列	奈良県神社庁
	同日	神宮大麻頒布推進委員会出席	橿原神宮会館
	10日	神道青年全国協議会創立65周年奉告祭参列	波照間島　聖寿奉祝の碑
	11日	第62回神宮式年遷宮奉祝祭参列	神宮
	21日	全國戦歿學徒追悼祭奉仕・参列	若人の広場
	22日	奈良県護國神社秋季大祭助勤奉仕	奈良県護國神社
	25日	奈良県神社関係者大会助勢	橿原神宮養正殿・神宮会館
	30日	第6回理事役員会	春日大社
11月	5日	南都聖和会との親睦交流会（神話紙芝居団「かたりべまほろば」第48回公演）	日本料理　花鹿
	12日	神道青年近畿地区連絡協議会第6回事業委員会	大阪府神社庁
	19日	第1回皇居勤労奉仕 青垣奉仕団推進委員会	大神神社
	同日	第7回理事役員会	大神神社
	29日	近畿神社庁連合総会出席	琵琶湖ホテル
12月	1日	会報「青垣」第50号刊行	
	2日	神道青年近畿地区連絡協議会第3回役員会	琵琶湖　ビアンカ
	同日	神道青年近畿地区連絡協議会第2回連絡会	琵琶湖　ビアンカ
	4日	第8回理事役員会	大神神社
	同日	役員忘年会	万直し本店
	6日	奈良県神社庁長杯親睦ゴルフ大会	宇陀カントリークラブ
		神宮大麻頒布活動	橿原市八木地区
	10日	伊勢神宮式年遷宮奉賛会奈良県本部解散式助勢	ホテル日航奈良
平成26年			
1月	27日	国旗掲揚推進一・二七御堂筋パレード	大阪市
	29日	第9回理事役員会	
	同日	新春互礼会	
2月		第10回理事役員会	
		神宮大麻暦頒布終了祭参列	
		神宮大麻頒布推進委員会出席	
3月	6～7日	神道青年全国協議会中央研修会	北海道
	19日	神道青年近畿地区連絡協議会第4回役員会	滋賀県
	同日	神道青年近畿地区連絡協議会第3回連絡会	滋賀県
	20日	神道青年近畿地区連絡協議会地区研修会	神宮
	28日	神道青年近畿地区連絡協議会ゴルフコンペ	和歌山県
		神職氏子合同研修会助勢	
		第11回理事役員会	

神話紙芝居団「かたりべまほろば」活動報告

本年は、神社界から一般に至るまで、幅広く公演の依頼を頂き、特に充実した一年であった。

去る八月十七日、全国神社保育団体連合会の総会が、橿原ロイヤルホテルにて開催された。その懇親会の場にて、清興としての紙芝居公演の依頼を、当会ＯＢ佐伯先輩より頂き、はじめて全国神社保育団体連合会の皆様の前でご披露させて頂いた。現在神社界において、直接子どもの教育・保育に携わっている方々に対して、当会の教化活動の一つの形である、神話紙芝居をお示しできたことは、大変意義深いことであり、有り難いことであった。公演後は、御覧頂いた皆様から心温まるお言葉を頂き、とても嬉しく感ずるのと同時に、一層心が引き締まる思いであった。また、この公演を一つの切っ掛けとして、今後の活動の中で幼稚園・保育園等々にて直接子どもたちを前に公演できればと、強い思いが芽生えた公演であった。

全国神社保育団体連合協議会(8/17)

八月十三日には、近鉄百貨店　橿原店において、『夏休みこども博・ｉｎ橿原』というイベントが催された。この催しの主旨は、夏休みのこどもたちの思い出作りや自由研究の手助けとなるようなモノ・コトをテーマとしたイベントの開催で、本年が二度目の開催とのことであった。反響も大きく、昨年より規模を拡張して行ったとのことであり、参加者も増加傾向にあり、今後も力を入れていきたいとのことであった。公演は午前と午後二度行ったが、老若男女問わず多くの方々に御覧頂けた。一般に広く大々的に宣伝をされたイベントにおいて公演をすることははじめてだったが、幅広い層の方々に御覧頂けたことは非常に意味があると感じた公演であった。また、先方からは「来年も開催の折りには、また、御願いしたい」との有り難いお言葉も頂いた。このイベントの益々の発展とここでの公演が恒例化すること期待したい。

近鉄百貨店橿原店
「夏休みこども博in橿原」
(8/13)

熱演中の団員たち

また、十一月五日には、南都聖和会との交流会が日本料理花鹿にて行われた。毎年行われている交流会において今回はじめて紙芝居の公演を行ったが、南都聖和会の皆様には実に熱心に御覧頂いたようであった。公演後は、同じ宗教者として、神話紙芝居への鋭い質問や参考になる御意見を頂くなど懇親の場での話しの種にもなった様子であった。

その他公演として、橿原神宮林間学園後の子ども会においての公演と、春日大社所属ガールスカウトの夏の実習での公演等を行った。この二つの公演は毎年恒例となっており、多くのこどもたちの前で公演をしている。参加のこどもたちは皆熱心に話を聞き、喜んで見てくれていることが、大変強く心に残っている。紙芝居事態が消えつつある中では、その保存の意味も込めた活動として、この二つの公演が今後も末永く続くように、努力しなければならないだろう。

来年、奈良県神道青年会は創立五十周年を迎える。神話紙芝居団かたりべまほろばも創設十周年という節目を迎えることとなった。そこで、この機会に新作を発表すべく作製を進めている。期待に沿える作品となる様団員一丸となり取り組んでいきたい。また、団員が減少傾向の為、新規加入者を随時募集しているので、興味のある方は奈良県神道青年会まで是非とも御一報頂きたい。

冒頭でも述べたが、本年は恒例となっている公演から、新たにお声賭け頂いた公演、多種多様な場にて公演をさせて頂いた有意義な一年であった。本年の経験を今後の公演活動の糧として、益々精力的に活動していきたいと思う。

南都聖和会との交流会
(11/5)

最後になったが、今回の多くの公演においてお世話頂いた、関係各位の皆様方に厚く御礼申し上げ、筆を置く。（橿原　篠）

宮城県復旧支援活動に参加して

七月二・三日に、神青協が主催した宮城県での復旧支援活動に参加させて頂きました。私は、今まで東日本大震災についてメディアを通してでしか情報を得ておりませんでしたので、心のどこかで、その被害が遠い国の出来事のように思え、正直のところ現地に行くまで実感が湧いていませんでした。

二日は、仙台駅からバスへ乗り込みました。仙台市から少し離れただけで、基礎しか残っていない敷地や建物が残っていても一階部分が柱のみの住宅、ナンバーが付いたまま積み上げられた潰れた車など、この支援活動で、私などが力になれるのだろうかと思えるほどの衝撃を覚えました。更には残念なことに、そのバスの中で金華山黄金山神社での活動の中止が伝えられました。当日は晴天でしたが、翌日以降が悪天候のため船便が欠航となり、当初の予定通りに本土へ戻れないという理由でした。そのためこの日は、石巻市の高台に鎮座する鹿島御児神社を参拝しました。この境内からは、石巻市の海岸線を見ることができましたが、海岸から丘の手前まで建物の数が極端に少なく、よく見るとその殆どが半壊、若しくは取り壊し中のものでした。境内に貼られていた震災前の景色とは全く違う場所の様になっていました。その後には同市山中の零羊崎神社に参拝しました。この両社とも氏子区域が被災し、神社としての活動が困難な状況であるということでした。

石巻市沿岸部

三日は、仙台市から南、亘理郡山元町鎮座の八重垣神社で復旧活動を行いました。被災前の写真から非常に立派な社殿を有する神社であったことがうかがえましたが、被災した現在、小さな本殿を頂いて仮の本殿としていること、更にプレハブ二棟を仮の社務所としているということでした。ここでは境内に埋まっている瓦礫やガラス片などの除去、雑草の処理などの作業を行いました。地面を少し掘り返しただけで、瓦や割れた瓶、レコードなどが出てきました。やはり、元々はここに人々の生活があったのだと、改めて感じました。午後三時ごろまでこれらの作業を行い、最後には境内外をかなり綺麗にすることができました。この神社の宮司さんは、女性でありながら、これだけの被害にあっても挫けることなく、ずっと神社の為に奉仕を続けているということに、何よりも「人」というものの強さを感じました。同時に、これだけ立ち直るまでに、どれだけの苦悩を乗り越えてきたのか、自分ならばこの宮司さんのようになれるのかと思い、切なくもなりました。

八重垣神社

復旧支援活動の様子

しかし、宮司さんのような「強さ」を持った方々を見て、東北は必ず立ち直ることができるという希望も見出すことができました。そのような方々にお会いできたことが、この活動を通しての私自身の大きな経験となったと思います。

最近では、テレビや新聞などのメディアから被災地に関しての報道は減りましたが、被災地の復興

はまだまだであることを、この活動に参加させて頂いた私たちが、改めて伝え広めなければならないと思います。実際に被災地を見て思うことは、たとえ元の姿に戻ることは無理であっても、元の姿よりも大きく立ち上がることを信じ、私たちは少しずつでも協力しなければいけないと思います。

（大神　出村）

福島県復興支援活動に参加して

平成二十五年の九月四日と五日の二日間、神道青年全国協議会主催の「東日本大震災」福島県双葉郡浪江町本務神社復興支援活動に参加致しました。全国から六十名余りの参加者があり、当会からは持田監事さんと橿原の多田副会長と私の三名が参加しました。

福島駅に四日早朝に集合し、現地にバスで移動しました。

だんだんと避難指示解除準備区域に近づくにつれ人影もなくなり、あたかも時が止まったように感じましたが、辺りに目をやると、一面に雑草というには余りにも高く伸びた草が生え、月日は流れていることを感じました。また、この景色を目の当たりにして、この二日間で我々がどこまで貢献出来るか不安になりました。

現地に到着後、復興支援活動に先立ち浪江町の役場で結団式を行い、参加者の士気を高めました。その後、貴布禰神社、初發神社、浪江神社の三カ所に分かれ作業を行いました。我々奈良神青は、貴布禰神社で二日間作業を行いました。貴布禰神社は高台に鎮座しておりますが、地震だけで無く、津波の被害にも遭い、社号標は倒れ、参道の石畳は海から運ばれてきた砂により埋もれ、草は鬱蒼と茂り、遠目に見ると、どこに神社があるのかわからないほどに被災していました。その光景を見た瞬間、心が折れそうになりましたが、皆で心を一つにして作業を行いました。私は参道に茂っていた草を抜いたり、一輪車で何度も砂を運び出したりしました。その結果、見違えるようにきれいになり、一時帰宅された方が安心してお参りが出来るようにまで整備することが出来ました。

復興支援活動前の貴布禰神社拝殿（上）と鳥居周辺（下）

作業後、最終日には参加者がお互いに復興支援活動をした神社を参拝し、早期の復興を祈願しました。

今回避難指示解除準備区域といわれる原発事故の中心地に行き、復興の手が行き届いていない現実と、原発事故被害の深刻さを直接肌で感じることができました。震災から二年半が経ち人々の記憶も風化している中、継続して復興支援活動を行うことが重要だと思いました。また、我々青年神職にとっての復興支援活動は形としての活動とは別に、心の復興支援活動もしていかなければならないと思いました。

震災の被災者にとって心のよりどころの一つである神社を護っていくことは、神と人との仲執持ちである我々青年神職の務めであり、今回行った復興支援活動は、大変意義のあることであると思います。

（橿原　伊藤）

活動後の貴布禰神社

神宮・京都・奈良 三神青親睦野球大会

5/16

平成二十五年五月十六日、恒例の神宮・京都・奈良三神青親睦野球大会が、神宮の当番により伊勢大仏山球場に於いて開催されました。

例年夏の暑い時期に開催されていましたが、本年は遷宮の年と云う事で春の開催となり、当会からは大月会長以下十四名の参加がありました。

昨年の近畿地区連絡協議会野球大会で準優勝し、会員の中では勝利に対する渇望が湧いてきた中での大会でした。

ところが、初戦の神宮戦では、相手投手の緩急自在の投球に打線は沈黙、守備も野球感がまだ戻っていないのか動きが緩慢で、本調子が出ないうちに負けてしまいました。（一対七）

気をとりなおして京都との第二戦は、前半京都打線に捕まり一対五と突き放されましたが、最終回に沈黙していた打線が奮起し、五対五の同点に追いつきましたが、惜しくも五対六で敗れました。

試合の後、神宮会館にて懇親会が行われ、普段余り交流の無い神宮の神青会員と懇親を深め、京都神青の会員とは、次に開催される近畿地区連絡協議会野球大会での健闘を誓いました。

悔しい思いを残しましたが、次に向けて手応えを感じた大会でした。

（橿原　高鉾）

禊・鎮魂錬成研修会 第一回勉強会

8/19～8/20

八月十九日と二十日の二日間にわたり、石上神宮に於いて平成二十五年度禊・鎮魂錬成研修会が開催され、本年は近畿地区各府県より女性神職を含む三十名が参加した。

十九日午後三時三十分、参加者は潔斎改服の後、正式参拝・開講式が執り行われる拝殿へと参進する。当日の奈良県の気温は三十六度。蟬の声の響き渡る中での参拝となった。引き続き参集殿において禊・鎮魂の指導を受け、午後五時半、合図と共に一斉に石上神宮の神域深くの禊場に向けて走った。山の谷合、小高い場所に禊場は位置する。鳥船・雄健・雄詰行事の参加者のかけ声は布留の杜にこだました。そして「エーイッ」という気合いと共に水に入り、参加者一同清らかな水に濯がれ大祓詞を奏上した。

午後七時、参加者は再び拝殿へ参進。浄闇の丹塗りの御殿の中、雪洞の明かりだけが照らす白衣の参加者は今がいつの時代かを忘れ、鎮魂・神拝行事は幻想的な空気に包まれながら執り行われた。

午後八時からは勉強会が開かれ、桜井市教育委員会指導主事の楢原祥弘氏より、奈良県桜井市が行った東日本大震災の被災地での現地研修時のお話を伺った。神青活動で復興支援に向かった者、参加出来なかった者、それぞれが今なお復興にはほど遠い被災地に思いを致し、やがて起こると言われている南海・東南海地震時に自分たちはどうしたらいいのかを考えさせられた。

翌二十日は境内各所の清掃の後、六時より再び禊・鎮魂神拝を行った。明け切らぬ薄い青色に包まれた禊場は、取材に来ていた新聞記者の目にも完全な清浄を見せた事だろう。昨日に比べ参加者もぎこちなさが取れ、禊は厳粛に執り行う事ができた。

その後の鎮魂も清々しい空気の中、拝殿にて行われ、参加者は心身共に清まった。

続いて国旗を掲揚し、次に講話と鎮魂型指導を受けた。普段でも心を落ち着かせる時にはこの呼吸法をつかうと良いと教えて頂いた。

正式参拝・閉講式は午前十一時より行われ、午後二時に全ての日程を終了。研修を終えた参加者はそれぞれの奉務神社へと帰社した。

（大神　中野）

姉妹神青交流事業（宮崎県）

9/2～9/3

宮崎県・奈良県姉妹神青締結二年目の今年は、九月二・三日に神武天皇降誕の地宮崎県に於いて姉妹神青交流事業が宮崎県神道青年会の主管により開催され、当県からは四名が参加しました。

初日は、宮崎神宮に正式参拝の後、宮崎県神社庁に場所をお借りし「『八紘一宇』の大御心を学ぶ」を主題として教養研修会が行われ、宮崎神宮権宮司黒岩昭彦先生に「八紘一宇の大御心」と題し講義を頂きました。八紘一宇については言葉の意味はそれなりに理解しているつもりでしたが、この言葉が造られ広まっていった歴史的背景や本来の意味を聴き理解を深めることができ、神職として「八紘一宇」の重要性を再認識することができました。

宮崎神宮杉田秀清宮司、黒岩昭彦権宮司と共に、八紘之基柱の下で絆を確かめ合った宮崎県・奈良県両神青会員。

その後、八紘之基柱（あめつちのもとはしら。八紘一宇の塔、現在は「平和の塔」）の見学に向かいました。引き続き黒岩権宮司様に御同行頂き、塔の御案内をして頂きました。昭和十五年十一月二十五日に世界各地から寄せられた石でできた三十六・四メートルの塔は、日本サッカー協会の八咫烏のエンブレムの作者でもある日名子実三氏の設計で、世界中の罪穢れを祓う為に御幣の形をしており、正面には秩父宮雍仁親王揮毫の八紘一宇の文字が掘られ、四隅には和御魂（工神を表す）、荒御魂（武神を表す）、幸御魂（農耕神を表す）、奇御魂（漁神を表す）の六メートルの陶像が配され見る者を圧倒していました。

塔の内部には普段入ることができないのですが、宮崎神青の皆様が熱心に県に掛け合って頂けたお陰で入ることができ、とても有難いことでした。しかし、塔の内部については外部に漏らさぬよう県の職員から注意を受けましたので、ここには八紘一宇に込められた民族協和の理想が表現されているとしか書けないこと御了承ください。

二日目は、台風の影響で高千穂の峰登山中止の為、県内神社巡りとなり、小戸神社・潮嶽神社・鵜戸神宮・青島神社の四社を参拝しました。奈良県とはまた違う雰囲気でしたが、神話の世界がそこかしこに残っており、宮崎県と奈良県の繋がりを感じることができました。

宮崎県の皆様には丁重なおもてなしを頂きましたこと誠に厚く御礼申し上げます。今後も両県の絆が切れることの無いよう事業を始め様々な交流を深めて参りたいです。

（談山　花房）

奈良県神社庁長杯 親睦スポーツ大会 9/6

平成二十五年九月六日に、橿原市の「ひがしたけだドーム」にて開催された、奈良県神社庁長杯親睦スポーツ大会に参加しました。

今回は、橿原神宮、大神神社、春日大社、諸社の四チームによるフットサルを行いました。フットサルをするのは初めてで、上手く出来るか不安もありましたが、お互いに助け合い、橿原神宮のチーム全員が正々堂々と戦った結果、優勝する事が出来ました。

普段、他の神社の方々との関わりが余り無かったので、この様な機会に参加出来た事は、とても新鮮に感じられました。また、お互いにプレーする事で、自然と交流を深めることが出来、スポーツをする事で感じられる一体感や爽快感が心地よく、貴重な時間を過ごすことが出来ました。

今回出会った人との繋がりを大切にし、より一層交流を深めていきたいと思います。

（橿原　巫女　松場）

第十九回 全國戰歿學徒追悼祭 10/21

十月二十一日、兵庫県南あわじ市にある「若人の広場」において「第十九回全國戰歿學徒追悼祭」が「全國戰歿學徒を追悼する會」主催、神道青年近畿地区連絡協議会の共催にて斎行された。当会からは五名が出席し、内二名が祭典に奉仕した。

祭典当日は井戸兵庫県知事をはじめ、淡路島の三市長や神職、僧侶、キリスト教関係者など総勢一五〇名が参加し盛大であった。祭典の行われる十月二十一日は、昭和十八年に明治神宮において出陣学徒壮行会が催された日で、毎年この日に行われ、今年で七十年を数える。

祭典は神道式で行われたものの、他宗教と合同のため、祭典の中で般若心経や賛美歌が流れる、とても不思議な感じであった。ただ方法は違っても、先の大戦において散華された学徒の方々を追悼しようという思いのもと、他宗教の人々が共に祭典を行うことは大変意義のあることだと感じた。

（大神　後藤）

南都聖和会との親睦交流会に参加して 11/5

去る十一月五日、奈良市奈保町の日本料理花鹿にて南都聖和会との親睦交流会が開催された。当日は、神道青年会から二十二名、南都聖和会から十五名が参加した。

年に一度の交流会で毎年主催者が変わり、今年度は当会の主催で、「かたりべまほろば」による神話紙芝居の公演が行われた。演目は「神武さん」で団員六名による公演であった。私も団員の一人であったが、まだ数をこなしていないのでなかなか難しいところもあった。それでも何とか、無事終えることができた。皆真剣に見ていただいたので良かったと思った。

紙芝居公演後、同会場にて懇親交流会がとり行われ、紙芝居の感想や意見、普段聞けない話やおめでたい話まで時間が経つのも忘れて両会の親睦を深めあった。

今回初めての参加だったが、聖和会の方とお話しさせていただいて、色々と新しい発見があった。今後も両会の交流を深め、互いに助け合い発展していけるようにしたいと感じた。

（往馬　大森）

奈良県神道青年会創立50周年記念事業

奈良県神道青年会は昭和３９年に結成され、平成２６年で創立５０周年の佳節の年を迎えます。この５０周年を記念して下記の通り事業を計画しておりますので、皆様ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

○記念大会の実施　平成26年9月25日（木）　ホテル日航奈良
○記念誌の発刊
○特別記念事業の実施　□奈良県神社案内マップの作成
□神話紙芝居団「かたりべまほろば」結成10周年記念公演
□第10回皇居勤労奉仕青垣奉仕団実施　平成26年9月1日～5日（予定）

奈良県神道青年会創立50周年記念　第10回皇居勤労奉仕

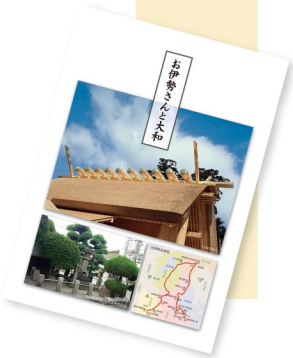
青垣奉仕団 団員募集

この度奈良県神道青年会では、第10回皇居勤労奉仕『青垣奉仕団』を結成致しました。
皇居勤労奉仕は、昭和20年5月の空襲で焼失した宮殿跡の整備のため、時の有志が勤労奉仕を申し出たのが始まりで、その後各地の団体からも同様の申し出があり、現在では皇居及び赤坂御用地において、ほぼ毎日ボランティアグループや地域の団体、職場の仲間同士等が、除草、清掃、庭園作業などの奉仕を行っています。
４日間にわたる皇居・赤坂御用地の清掃を通し、日常では味わう事の出来ない清々しい気持ちを体感し、
天皇皇后両陛下より御会釈を賜りました折には、青垣奉仕団一同声高らかに「聖寿万歳」を申し上げ、御皇室国家のご安泰と世界の平和を祈念致したく存じます。
また今回は奈良県神道青年会創立50周年記念事業として実施させて頂きます。ぜひこの機会に、お一人でも多くの皆様に皇居勤労奉仕へご参加頂きますようご案内申し上げます。

- **実施予定日**　平成26年9月1日(月)～5日（金）【奉仕は2日(火）～5日(金）の4日間】
(上記日程にて奉仕団体申込多数の場合は宮内庁にて抽選が行われる為、日程が変更になる場合がありますので、ご理解の上お申し込み下さい)
- **参加費**　95,000円（予定）《交通費・食費・宿泊費等》
- **募集人数**　30名
- **参加資格**　年齢15歳以上75歳以下で、奉仕期間中健康に責任の持てる方
- **申込締切**　平成26年1月末日（尚、定員集まり次第締め切らせて戴きます）
- **お申し込み・お問い合わせ先**

○談山神社　〒633-0032　桜井市多武峰319
☎0744-49-0001　FAX. 0744-49-0236　担当：花房（はなふさ）　兼輔（けんすけ）
○春日大社　〒630-8212　奈良市春日野町160
☎0742-22-7788　FAX. 0742-27-2114　担当：鈴木（すずき）健太郎（けんたろう）
○橿原神宮　〒634-8550　橿原市久米町934
☎0744-22-3271　FAX. 0744-24-7720　担当：樺山（かばやま）　恭平（きょうへい）
○大神神社　〒633-8538　桜井市三輪1422
☎0744-42-6633　FAX. 0744-42-0381　担当：中野（なかの）　光（ひかる）

神宮啓発冊子「お伊勢さんと大和」



当会では第六十二回神宮式年遷宮の奉祝事業の一環としてこのたび『お伊勢さんと大和』と題する小冊子を製作致しました。

初代神武天皇より御歴代天皇が都を築かれ「国のまほろば」と讃えられた大和の国は、伊勢の神宮と極めてご縁が深い土地柄です。

第十代崇神天皇の御代、それまで天照大御神の御神勅の随に皇居にて大御神は祭られてきましたが、同天皇六年皇女　豊鍬入姫命に託され初めて皇居の外「倭笠縫邑」に奉遷せられ、大御神を奉戴される御杖代は後に、垂仁天皇皇女　倭姫命に引き継がれ同天皇二十六年現在の大宮地である伊勢の五十鈴の川上の地にお鎮まりになられました。二皇女が幾多の困難に耐え八十八年のご巡幸の中、大和の国はそのご出発の地であり、凡そ半数の四十七年間お鎮まりになっておられたと伝えられています。

県内には、最初のご遷幸地と伝わる「倭笠縫邑」やご巡幸の聖蹟と伝わる「元伊勢」と親しまれる神社が今も神宮の源流として数多鎮座します。又、伊勢街道が発達した大和の国は多くの人々が往来し、独自の伊勢信仰を育み、大御神の神恩に感謝する燈籠が現在も県下至る所に屹立しております。

式年遷宮が大御心の随にご齋行され、神宮への関心が日々高まる今日、ご社頭で、また年末年始の神宮大麻頒布の時を控え、本冊子が広く活用され多くの皆様の神宮崇敬に対する理解の端緒となりますよう製作致しました。

冊子はB5版（表紙含四頁）のカラー印刷で写真入りの文字も見やすい構成で、神宮と奈良との関係を中心に、神宮大麻の奉齋の意義、お祀りの仕方も図入りで平易に解説しております。十月の関係者大会の折にお知らせしましたところ、大勢の皆様にお持ち帰り頂きました。

今後も独自の神宮崇敬に関する啓発活動を実施してまいりますのでご支援ご教導の程宜しくお願い申し上げます。

新入会員紹介

①生年月日　②座右の銘　③趣味　④休日の過ごし方　⑤ひとこと

大神神社

北島（きたじま）　慈人（ちかと）

①平成二年三月二十六日
②一所懸命　③映画鑑賞
④好きなものを食べにいって温泉巡り
⑤毎日楽しんでいきたいです。

大神神社

橋本（はしもと）　光史（みつふみ）

①平成二年十月十四日
②継続は力なり
③バレーボール　野球
④スポーツ　買い物
⑤早く神道青年会の一員として力になれるよう頑張りたいです。

荒神社

（平成二十四年度入会）

林（はやし）　正裕（まさひろ）

①昭和六十年三月九日
②堅忍不抜
③野球
④家族サービス
⑤日々精進します。

檀原神宮

澤（さわ）　隆正（たかまさ）

①昭和五十七年三月六日
②不動如山
③テニス・スキー
④ツーリング
⑤よろしくお願いします。

蘇園八幡神社

平田（ひらた）　佳誉（よしたか）

①昭和六十年八月六日
②安居楽業
③卓球　④スポーツ観戦
⑤これからよろしくお願いします。

往馬坐伊古麻都比古神社

（平成二十四年度入会）

大森（おおもり）　啓史（ひろし）

①昭和六十二年八月十六日
②石橋を叩いて渡る
③野球観戦　④出歩き
⑤引き続きよろしくお願いします。

編集後記

会報「青垣」五十号をお届けいたします。先ずはご寄稿、ご協力いただきました皆様に心より御礼申し上げます。

本年は出雲大社では六十年ぶりに、また伊勢の神宮では二十年に一度の御遷宮が行われるという佳き年でした。

御遷宮に際し、二十年あるいは六十年という時間をつなぐ行事を全うすることは、ただ只管に神様の常若を願うばかりではなく、長きにわたり祈りつづけてきたご先祖の想いを受け継ぐという決意表明でもあるのではないかと（恐れ多くも）感じました。

さて、来年、当会は創立五十周年の節目を迎えます。多くの先輩方が積み重ねてこられた想いを受け継ぎ、後の十年をも展望できるような「決意表明」を来年度の会報「青垣」で報告できますようにと今から乞い願うばかりです。

会員の皆様、「心を合わせて力を一つに」頑張りましょう。

（広報部　栗野）